



編集・発行  
 日蓮宗 能勢妙見山  
 広報部  
 〒563-0132  
 大阪府豊能郡能勢町野間中  
 電話 072-739-0329  
 FAX 072-739-2883

# 秋季彼岸会法要

9月22日（日）午後1時於北辰閣（寺務所）2階ご宝前

秋季彼岸にあたり、ご先祖並びに有縁の靈位に塔婆供養します  
 ご希望の方は寺務所までお申し込み下さい（御志納料五千元より）

## 【9月の主な行事】

☆八朔祭祈禱 1日(日) 9時～16時 随時ご祈禱  
 開運殿にて 報恩法要  
 北辰閣二階 11時40分 奉納落語  
 (喜怒哀楽氏)

御祈禱お申込の方には「開運八朔田之実守」授与

★写経会 8日(日) 11時

★清掃の日 15日(日) 11時

★月例祈願法要 15日(日) 13時

☆秋季彼岸会法要 22日(日) 13時 北辰閣二階

★鷗様月例祭 22日(日) 15時  
 火伏せ守りの黒札を授与します

## 【10月の行事予定】

★写経会 13日(日) 11時

★清掃の日 15日(火) 11時

★月例祈願法要 15日(火) 13時

★鷗様月例祭 22日(火) 15時

◎ご祈禱・ご回向等のお申込はFAX・メールでも受け付けています

◎送迎バス 奉賛会会員並びに、ご祈禱ご回向のためにご参拝のご信者様の便宜を図り、能勢電鉄妙見口駅から山上までの送迎車を用意しています

利用ご希望の方は、必ず2日前までに電話で連絡を願います 但しご希望に添えないこともあります

### 善き友がすべて

相川大輔

八月二十二日は、当山の孟蘭盆会施餓鬼水向供養法要で大勢の皆様とともに法華経読誦と唱題の修行を行うことができました。

大勢での修行と申しますと、日蓮宗には「僧風林」という、小学四年生から中学三年生までの各寺院子弟のための修行機関があります。近畿では京都の本山にて、夏休み中の一週間泊まり込みで修行を行います。

私の小学生の息子も昨年続き今年も僧風林のお世話になりました。

僧風林では、朝のお勤めから始まり、訓話や法要式の練習、書道、読経や座学を修め最終日に子供達のみで模範法要が行われます。

この僧風林で十六人の仲間とともに息子も多くのものを得ることができたようです。特に何ものにも代え

がたいのは「修行仲間との絆」です。

実は僧風林修了後に自坊のお盆の棚経まいりがあるのですが、息子自ら私と一緒に棚経まいりをしたと言ってくれたのです。話を聞くと、僧風林の仲間が棚経まいりをしていて聞いたので自分もやってみたくてのことでした。

息子の言葉を聞いて、お釈迦様が説かれた「善知識（善友）」のことが思い起こされました。

ある時、阿難尊者がお釈迦様に

「善き友がいること、善き連れがいること、善き仲間が成就されます」とお話ししました。すると

「阿難よ、そのように言っではなりません。阿難よ、なぜなら、善き友がいること、善き連れがいること、善き仲間がいることで、仏

道のすべてが成就されるからです」

と応えられたのです。仏道修行において、いかに修行仲間が大切であるかというエピソードだと思われ

ます。今回の息子の棚経への思いは、親や他人に言われたからではなく、まさに善知識（善友）がいて、彼らの善き言動に感化され、自然に生じたものだと言えるでしょう。

### 読書

書店で選んだ小説だが、読み始めると、前に読んだものだと感じた。でも読み進めるうちに、筋は覚えていたのに、夢中になっていた。前には気づかなかった情景描写や登場人物の仕草など、興味を引くものがあつたのだ。良質の小説の素晴らしさである。しかしなんといつても永遠のベストセラーは仏典。中でも法華経は飽きがこない。

### 《法華経に学ぶ現代》

～純智庵～

### 諸の佛

### 世を救う者は

### 大いなる

### 神通に

### 住す

『如来神力品第二十一』

佛は神ではないけれど、神の世界に住んでます。なぜなら佛は、この世の人々を救いたいとの願いの下に、今も生きてるいのち故にたとえ肉体は滅しても、光や風や雨となり、この大空に生きてます。だから諸仏は、居るんです。

### 仏教まめ知識

### 貪著（とんじやく）

「広辞苑」に貪着を、足ることを知らず物に執着すること。むさぼりつくこととある。

人間の欲望にはキリがない。満足することを知らず貪り求めることを仏教では貪欲というが、一般には「どんよく」と読む。またむさぼり求めて執着することを貪著といい頓着とも書く。

貪欲は人間の根源的な三つの煩惱（三毒）の一つで、心をかき乱し悟りを妨げる原因とされている。この貪欲のない心の状態を無貪著というが、これも俗に無頓着と書き、物事を気にしない状態を表す言葉になっている。また貪欲が強く狂気じみるのが貪狂。一般には頓狂と書き調子づばずれなことをいう。法華経の譬喩品に「諸苦の所因は、貪欲これ本なり」と説く。呉々も欲が過ぎて物狂いにならぬよう、心掛けたい。